

6 3 6 1 - 6 4 8
平成 1 9 年 6 月 1 9 日

各関係機関長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センタ - 所長

平成 1 9 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号について

平成 1 9 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

平成 1 9 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名：トルコギキョウえそ輪紋病
- 2 発生作物：トルコギキョウ
- 3 病原ウイルス：*Iris yellow spot virus* (I Y S V)
(トスポウイルス属)
- 4 発生確認の経過
平成 1 9 年 1 月頃から、県央部の施設栽培のトルコギキョウ（品種名：ボレロホワイト他）で、円形、不定形のえそ斑点が見られはじめ、激しいものでは葉の湾曲や萎凋症状も見られるようになった。総合農業試験場において R T - P C R 検定を行った結果、I Y S V によるえそ輪紋病と同定された。
本ウイルスによる病害は、1 9 9 6 年（平成 8 年）に千葉県のアルストロメリアで発生したのが最初で、その後 2 0 0 1 年から報告が相次ぎ、これまでに 1 都 1 3 県で発生が確認されている。九州では佐賀県、大分県、福岡県から報告がある。（いずれもトルコギキョウ。大分ではアルストロメリアも。）
- 5 病徴
本病害での主な症状は、初期黄斑、えそ斑（円形～不定形、小斑点～大型斑）で、葉及び葉の付け根部に発現し、株によっては葉の湾曲を生じ、病気の進行に伴う萎凋症状を起こすものもある。
葉の黄化や茎のえそ条斑、花弁の斑入り等の症状も他県で報告されている。
- 6 伝染方法
本ウイルスはネギアザミウマによって媒介され、一度ウイルスを獲得した個体は死ぬまでウイルスを伝搬する。（永続伝搬）
ミナミキイロアザミウマやその他のアザミウマによる伝搬は確認されておらず、土壌伝染、種子伝染、接触（汁液）伝染も確認されていないが、他のトスポウイルスで見られるように、弱い接触伝染性はあると考えられる。
- 7 宿主
寄主植物については表 1 参照。トルコギキョウの他、ニラ、タマネギ、ネギ等への

感染も懸念されるので、注意が必要である。

表 1 寄主植物一覧

科名	植物名
リンドウ科	トルコギキョウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ユリ科	タマネギ、ネギ、ニラ、リーキ
ヒガンバナ科	アマリリス、ユーチャリス(アマゾンリリー)、クリビア(クンシラン)
アヤメ科	ダッチアイリス
ヒユ科	センニチコウ

8 防除対策

- 1) 本ウイルスを伝搬するネギアザミウマの防除を行う。
- 2) 罹病植物は二次伝染源となるため、ビニール袋に密封するなど適切に処分する。
- 3) 施設の開口部には1mm目以下の防虫ネットや寒冷紗等を設置し、媒介虫の飛び込みを抑止する。
- 4) 栽培終了後には、ハウスの蒸し込みを行い、媒介虫の拡散を防ぐ。
- 5) タネツケバナ(アブラナ科)は本ウイルス病の伝染源に成り得ることが確認されている(大分県報告)ので、これを含め繁殖源となる雑草の除草を徹底する。



写真1 えそ小斑点



写真2 萎凋症状

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間・米良

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>